

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
A. 高等教育の質向上	① 共同FD・SDの実施(期間中に15回)	A-1	大学教育の質の保証	教育の質保証に向けて、プラットフォームの全大学が活用できる教学IRシステムを構築する。	F-3と共同作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の成長を可視化するために必要なデータを抽出し、それらを一つの画面で表示できる共通フォーマットを作成する。特にe-ポートフォリオの整備を行い、学生のリフレクション機能の向上と教員の支援を強化する。</li> <li>作業は教務系WGで具体的にを行う。</li> </ul>	短期大学コンソーシアムに加盟校では、共通フォーマットを作成し、稼働させつつあるとの情報が寄せられている。しかし、4年制大学では各大学で独自のフォーマットが使用されている。このために企画や内容を統一するためにどのような方策があるか模索中である。	短期大学でのポートフォリオと4年制大学のポートフォリオを統一するかどうかの議論を早急に深める必要がある。統一に向けては経費の面も含めての検討が必要と考えている。完全な統一が無理ならば、地方公共団体や企業の意見を聞いて、例えば、卒業期に作成する卒業ポートフォリオの企画や内容を統一することも考える必要がある。教務WGとの連携して行う。
		A-2	カリキュラム改革事業	プラットフォーム参加大学の人材や地域の官・産の人材を生かした共通授業を編成し、カリキュラムの改善を図る。	F-1と共同作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会が求める人材像を明確にして、各大学のカリキュラムに反映するとともに佐賀県と長崎県の歴史と文化を理解し、地域貢献の意欲を喚起する共同授業を構想し、次年度の実施に向けての準備を整える。</li> <li>作業は教務系WGと共に行う。</li> </ul>	佐賀県と長崎県及び両県の企業からは、地域社会に貢献できる人材の育成の要求が出されている。これに応えるために、どのような方策が適切かを考え、まずは、IT技能の向上に焦点を当て、計画を練りつつある。	まずは、地域で貢献できる人材の育成に向けたカリキュラム編成が急務となる。これまでの、両県の企業を紹介する授業だけでなく、IT活用能力を文系の学生にもつけさせるための授業を開発し、教務WGとも連携して幹事大学を中心に実践する。
		A-3	共同FD・SD事業	プラットフォーム事業の趣旨を徹底し、教職員協働での事業推進を図るためのFD・SDを実施する。	F-2と共同作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の趣旨を徹底し、各大学の全教職員が貢献できるようになるためのFD/SDを全大学が参画する形で開催する。具体策については教務系WGと共に企画・実施する。</li> <li>さらに各大学の取組状況をHP等で公開する。</li> </ul>	<p>昨年度は、長崎県立大学の初年次教育に関するFDがプラットフォーム参加大学に開かれ好評を博した。それに引き続き各大学のFDやSDがプラットフォームとの共催になっている。これは、同じような課題を持つプラットフォーム参加大学にとって大きな魅力となっている。</p> <p>現在は、今年度に各大学で開催される予定となっているFD等の中で、プラットフォームとの共催にできるものを募集し、一覧を作って周知を図ろうと努めている。</p>	各大学が提供し、プラットフォームが共催するFDやSDをプラットフォームの年間行事として位置づけ、参加校の意識向上を図る。また、必要に応じてプラットフォームが主催するFDやSDを企画し、各年度で1回は開催する。
		A-4	留学生支援事業	プラットフォーム参加大学の留学生の学修や卒業後の地元企業での活躍等を見据えたキャリア支援を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生の就職活動には日本語能力の向上が欠かせない。各大学の従来からの日本語教育教材を持ち寄って検討し、共通に使用できる日本語教育教材を開発し、初級用テキストにまとめる。</li> </ul>	<p>幹事大学の留学生を対象として、日本語能力向上に関する調査を行っている。それによれば、向上意欲はあるもののその修得環境が十分でない等の意見が出されている。この点の解決への模索を行っている。</p> <p>留学生の日本語学修支援のためのアプリ開発などを含めた教材開発のためのニーズを洗い出すための留学生を対象としたアンケート調査の準備を進めている。各国からの留学生に対応するため、中国語や韓国語、ベトナム語でのアンケート調査の翻訳作業を実施している。</p>	留学生を教える日本語教員の数は各大学共に多くなく、余裕のない状況にある。そこで、大学や講義を離れたときに活用できる何らかの教材の開発を行う。教務WGとともに、IT環境を利用した補助教材の開発を行う。今後、アンケート調査の準備が整い次第、Webを用いた調査を実施していく。
	A-5	円滑な高大接続事業	プラットフォーム参加大学の将来に向けた基盤を強固にするために入試広報事業等を共同で行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の実績を踏まえ、プラットフォーム内の大学の入試課の連携を強化する。そして地域活性化人材を具体的に育成するための選抜方法の検討を行う。</li> <li>この作業のために入試課を中心としたWG設置を検討する。</li> </ul>	昨年度は、プラットフォームの大学、短期大学が一堂に会して説明会を行った。これは、高校生にとっても有意義と考えるので、この方式での説明会を学生WGとも連携して行う計画である。	学生WGと連携して両県の高등학교に働きかけ、効果的なプラットフォーム参加大学の説明会の開催を企画する。また、両県の高校生に県内の大学の特性をアピールし、進学先としての県内大学の存在価値を高める方策を追究する。	
	A-6	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活性化という本事業の目的に向けて各大学の特性を活かした事業を考案し、それを学生が主体となって行うようにする。</li> <li>この事業については、各大学の実施時期を調整し、年間を通して本プラットフォームの認知度を上げる。</li> </ul>	各大学は、カリキュラムに特徴を持たせ、将来社会に必要な人材の育成に力を入れている。その一つに、各大学が立地する地方公共団体との連携事業がある。これらの進展に力を入れてもらい、成果その成果をプラットフォーム内で共有しようとしている。	各大学が始める独自事業の発展のためにプラットフォーム参加大学が貢献できる部分がでてくると考えている。それを共有し、複数の大学で進める地域貢献事業を掘り起こす。このための会議を行い、可能なところから実施する。	
	A-7	自己評価と外部評価	本専門委員会が担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。		<ul style="list-style-type: none"> <li>2年目の目標は大学の全教職員が本事業を明確に理解し、目標に向けた行動がとれるとともに、社会の認知を得ることであることから、事業を着実に行うとともに、社会に向けた広報を活発化する。</li> <li>年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。</li> <li>外部評価に向けた準備を進める。</li> </ul>	自己評価に関しては、プラットフォーム内で立ち上げる体制が整いつつある。ただ、外部評価に関しては具体策が出ていない。この状況を早急に改善することが必要であると認識している。	自己評価委員会と外部評価委員会を立ち上げ、本年度から本格的に稼働させる。また、その評価を組み入れ、事業の改善を行う。	
	A-8	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>長崎県と佐賀県との連携をより強くし、それぞれの県の施策において本事業が果たす部分を大きくする。</li> <li>また専門委員会とWGの位置づけをより適切なものにし、作業の効率化を図る。</li> </ul>	現時点においては、新たな事業は計画されていない。今後は、佐賀県や長崎県、及び企業の方々の意見を聞き、新たな事業の必要性について判断したい。	佐賀、長崎の両県の担当者、及び企業の担当者との意見交換を円滑にして、高等教育の質向上のための新たな事業の可能性を探る。	

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

課題分野名		中期計画		備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
B. 健康・医療・福祉	① 生活習慣予防等の関連事業の実施(特定地域内の自治体[市町]の1割で実施)  ② 健康増進事業の実施(最終年度までに実施事業数を2017(平成29)年度比で10%増)	B-1	生活習慣病予防、介護・認知症予防事業を通じた生涯現役プログラムの開発・普及	①「認知症予防プログラム」に関してPF内での情報共有を推進し、実施地域の拡大を図る。	・継続して、認知症予防に関する講演会・シンポジウムを開催するものとし、各大学の参画を促すとともに認知症予防プログラムの実施地域の拡大を検討する。	P②にて実施計画作成	9月中に実施予定
				②糖尿病等の生活習慣病を予防するための講座を運営する。	・生活習慣病を予防するための講座についてのテーマの絞り込みや方法論について検討し情報を共有する。	P①にて実施計画作成	FDにて情報共有の予定
				③大学・短大の授業の地域志向化を通じて、上記プログラムへの学生参画を実現する。	・正課授業の地域志向化などを通じて、上記プログラムへの参画学生の拡大を図る。	P①P②にて実施計画作成	FDにて情報共有の予定
		B-2	地域の福祉ニーズの調査・研究に基づいた福祉プログラムの開発・普及	①各大学・短大のもつ資源と関係自治体の福祉課題を調整し、課題解決に向けたプログラムを開発・普及する。	・関係自治体の関連部局との対話の場を設けて課題の抽出を行い情報の共有化を図る。	未着手	FDにて次年度以降計画作成(自治体との調整要)
				②各大学・短大の授業の地域志向化を通じて、上記プログラムへの学生参画を実現する。	・上記プログラムの参画学生の拡大を図るだけでなく、高校生も対象とすることを検討する。	未着手	FDにて次年度以降計画作成(自治体との調整要)
		B-3	生涯学習の視点に立った公開講座・教室の企画・運営	①幼児から高齢者まで各年齢層のニーズに即した公開講座・教室を企画・運営する。	・継続して、生涯学習の視点に立った公開講座・教室を企画・運営を開催し、各大学の参画を促す。	未着手	FDにて情報共有の予定
				②公開講座・教室の高度化を目指す。	・公開講座参加者の意見を徴し、参加者のニーズに即した翌年度の講座の展開企画を検討する。リカレント教育のコンテンツも創出していく。	未着手	FDにて情報共有の予定
		B-4	地域住民の健康増進に資するプログラムの開発・普及	①食育の普及・推進活動の中核とした生活習慣の改善と心身の健全育成についての支援プログラムを開発・普及する。	・参画校の一部において実施している生活習慣の改善と心身の健全育成についての講座・教室の実施範囲を拡大する。	P①にて実施計画作成	FDにて情報共有の予定
				②健康教育プログラムを開発・普及する。	・参画校の一部において実施している健康教育プログラムについての講座・教室の実施範囲を拡大する。	P①にて実施計画作成	FDにて情報共有の予定
				③大学・短大の授業の地域志向化を通じて、上記プログラムへの学生参画を実現する。	・上記プログラムの参画学生の拡大を図る。	P①にて実施計画作成	FDにて情報共有の予定
		B-5	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。	・参画校がそれぞれで実施している地域産業活性化支援策と次年度の実施策をまとめ、参画校間で共有する。	未着手	FDにて情報共有の予定(FDにて)
		B-6	自己評価と外部評価	本専門委員会が担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。	・年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価に向けた準備を進める。	未着手	31年1月中に実施予定
		B-7	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項			

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画				備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定	
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名					事業の概要
C. 子ども育成	① 関連教材の開発(4本)	C-1	幼児・児童・生徒等を対象とした学習支援及び教育教材の開発の推進	グローバル化が進む中、幼・小・中・高校生に具体的な学習支援をするための方策を検討。幼児・小・中・高校生と大学生の異世代交流の促進。小学生等対象の教育教材の作成。	・幼児教育・保育における教育教材の共同開発等についてPF参画校で事業化する。	(長崎国際大) (異文化理解教室) 例年6月下旬から1月末の期間に実施。一部の小学校からは日程の打診が入っているが、本調査回答の時点で調整中。 (長崎短期大学) ・"Awesome Saseho! Project"がスタート。活動企画を行っている。	(長崎国際大) (異文化理解教室) 依頼を受けたい、実施校の担当者と本学担当で日程ならびに内容面の搭合せを行い、実施する。	
		C-2	地域と協働した子育て支援・子ども支援活動の推進	子ども支援事業(キッズスポーツ・子ども食堂・憩いの広場・遊び場の提供・多様な学習や体験活動の充実等)を実施。	・地域との協働、学内行事等の実施とPF参画校間の情報共有と協働	(長崎国際大) ・「平成30年度キッズキャンパス」開催日程については、H30.1.18開催：地域連携センター会議にて審議し、H30.1.31開催：全学教授会にて確定した。 チャレンジスポーツ：6月2日(土)から第1回目をスタートさせている。9日(土)との2回でのべ48名の参加がある。 ・2018年度の第1回目の子ども食堂が7月7日(土)に開催予定である。今回の対象者は、地域の子どもとその保護者であり、ボランティア学生を含めて70人が参加予定である。他学科の学生が参加するようになった。 ・(異文化理解教室) 例年6月下旬から1月末の期間に実施。一部の小学校からは日程の打診が入っているが、本調査回答の時点で調整中。 (English Camp) 川棚中学校から実施の依頼を受けている。 (長崎女子短大) 企画・実施日程を決定し、短大ホームページ等に掲載している。	(長崎国際大) ・「平成30年度キッズキャンパス」にては、7月に開催に関する会議を開催予定。 チャレンジスポーツ：12月8日(土)を最終日(20回目)とし、8月を除いた毎週土曜日19時～21時まで実施予定である。 ・子ども食堂の活動範囲を広げていく予定であり、回数を増やしていく予定である。また、地域の行政との連携を取って、地域のニーズに合わせて子ども食堂を開催していく予定である。 ・(異文化理解教室) 依頼を受けたい、実施校の担当者と本学担当で日程ならびに内容面の搭合せを行い、実施する。 (English Camp) 12月上旬の実施を軸に、日程調整中。 (佐賀女子短大) ・多久市子育て支援センターでんでんむしでの遊び広場づくり ・佐賀新聞社主催ばぶぶフェスタでの遊び広場づくり ・多胎ファミリー応援フェスタでの遊び広場づくり ・佐賀市子育て支援センターゆめほけっとでの遊び広場づくり (長崎女子短大) ・小学生のためのマナー講座「すくろくで楽しくマナーを学びましょう」	
	② 関連支援活動の実施(最終年度までに実施取組数を2017(平成29)年度比で2倍)			子育て支援・子ども支援のための人材養成と卒業生登録システムの検討。	・人材養成教育プログラムを共同研究する。			
				保護者に対する子育て講座(子育て支援)事業の実施。	・保護者のニーズ調査とそれに基づく情報発信や講座等の共同開催	(佐賀女子短大) ・多久市子育て支援センターでんでんむしでの保護者向け育児講演会 (長崎女子短大) 企画・実施日程を決定し、短大ホームページ等に掲載している。但し、2月予定の子育て支援保育講座については日程未定。 ・親子講座内容及び日程は決定している。 (長崎短期大学) ・日野幼稚園サラダっ子通信4月、5月、6月号発行。 ・佐世保市の児童福祉週間事業であるさせぼわんぱくひろばに食物科・保育学科保育専攻、専攻科保育専攻の学生が参加。 ・のびのびワークショップ(全4回)のうち、1回目(5月19日)を開催。 ・"Awesome Saseho! Project"がスタート。活動企画を行っている。	(佐賀女子短大) ・多久市子育て支援センターでんでんむしでの保護者向け育児講演会 (長崎女子短大) ・子育て支援保育講座 ・親子講座は開催の順番を決定し、南島原市ホームページに掲載予定。 (長崎短期大学) ・日野幼稚園サラダっ子通信は月1回発行予定。 ・日野幼稚園「クッキング体験」、白蝶クッキングスタジオは日程を調整中。 ・のびのびワークショップは6/23、7/21、10/28に開催予定。	
		C-3	発達障害児に特化した支援活動の実施	幼・小・中・高校生の発達支援の現状と課題を把握し、地域支援へつなげる。	・子ども発達支援士(基礎)プログラムで実施している支援活動参加保護者を対象に支援ニーズに関する調査を実施する。	(長崎国際大) ・自閉症児余暇活動支援事業「どれみふあくらぶ」 【活動①】 4/22、参加者12名(子:8、保:4)、学生ボランティア15名、教員3名で「ビザ作り体験」を実施した。 【活動②】 5/22、参加者12名(子:8、保:5)、学生ボランティア9名、教員3名で「韓国式のり巻き作り体験」を実施した。	(長崎国際大) ・自閉症児余暇活動支援事業「どれみふあくらぶ」 今後6回実施予定。日程は、自閉症協会長崎県支部東北地域との調整によって変更することもある。 (佐賀女子短大) 子ども発達支援士養成プログラムを実施している大学と調整を行い、支援ニーズ調査を計画・実施する。	
		C-4	教育・保育専門職業人を対象としたキャリアアップ・リカレント教育の実施	卒業生のリカレント教育の検討。社会人の学び直しの教育課程を構築。	・キャリアアップ研修や公開講座等の専門教育人材の相互活用。	(長崎女子短大) ・保育講座 講座内容及び日程は決定している。	(長崎女子短大) ・保育講座 講座開催の順番を決定し、南島原市ホームページに掲載予定。左記の日程と講座内容で実施する。	
	C-5	子どもの発達や健全育成にかかる地域課題研究の実施	子どもの健康・児童福祉・貧困・非行・学習環境等の実態調査。地域課題研究の抽出のために行政等と産官学連携を図る。	・長崎県、佐賀県で実施している全学的な子どもに関する調査・研究をまとめて、PF参画校間ならびに関係団体、自治体と情報を共有する。	(長崎国際大) 子ども食堂の開催を通じて、地域企業と連携しながら、子どもを取り巻く潜在的な地域課題、特に児童福祉と貧困に関する潜在的なニーズの抽出に取り組んでいる。	(長崎国際大) 専門委員校間の共同研究において、一人親家庭と多文化家庭の自立支援に関する年度内の調査研究を企画している。		
	③ リカレント教育の実施(参画校内で3校)	C-6	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。	・地域の活性化という本事業の目的に向けて、長崎県、佐賀県それぞれの特性を活かした事業を実施する。 ・年間を通して、本プラットフォーム事業の認知度を上げる。 ・参画校各校の「子ども育成」に関する取り組みについて収集したアンケートを発展させ、事業種別及び対象年齢層のカテゴリ分けをした、参画校相互に協働できる体制作りのためのデータベース化を進める。	(長崎国際大) (異文化理解教室) 例年6月下旬から1月末の期間に実施。一部の小学校からは日程の打診が入っているが、本調査回答の時点で調整中。 (English Camp) 川棚中学校から実施の依頼を受けている。 (長崎短期大学) ・"Awesome Saseho! Project"がスタート。活動企画を行っている。 (専門委員会) 参画各校の「子ども育成」に関する取り組み調査の項目を改訂し調査中。	(長崎国際大) (異文化理解教室) 依頼を受けたい、実施校の担当者と本学担当で日程ならびに内容面の搭合せを行い、実施する。 (English Camp) 12月上旬の実施を軸に、日程調整中。 (長崎短期大学) ・異文化交流パーティを7/21に開催予定。 ・培材大学(韓国)・長崎短期大学共催・語学スクールMAX後援「はじめてのハングル講座」を8/20-24開催予定。 (専門委員会) 7月5日開催予定の平成30年度第1回専門委員会の中で、各校の取り組みを共有する。	
C-7		自己評価と外部評価	本専門委員会が担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。	・社会に向けた情報発信、広報をすることで、事業の定着化を図る。 ・年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価に向けた準備を進める。				
C-8	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項	・長崎県、佐賀県の連携をより強くし、それぞれの県の施策において本事業が果たす部分を共有する。 ・平成30年度の「子ども育成」専門委員会の追加事業として、短大WGとの協働で「短大フェス」とジョイントする。					

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
D. 国際交流・観光・まちづくり	① 関連講座の実施 (最終年度までに6講座開設)	D-1	語学講座・国際交流イベントの産官学連携事業	グローバル化の進展、およびインバウンド観光者の増加に伴い、市民の語学力や観光関連業界従業員の語学力の向上が求められている。そこで、各大学が有するシーズ、各産業界・県民や市民が求めるニーズを踏襲し、産官学連携で実施する語学講座・国際交流イベントの実施体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各参加校・関係機関は2名以上の委員を選出し、委員会体制を構築する。</li> <li>委員会では、前年度確認したシーズを産官学が連携して実施することを検討する。具体的には、また、各主担当校が幹事となりD-1～3でそれぞれ事業を計画・立案し、参加校・官・民がこれに協力して運営を行う。参加校は各事業を視察し、委員会でその成果を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【D-1】(主担当:長崎外国語大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季期間に語学講座(英語通訳セミナー)の開催を企画中。</li> </ul> </li> <li>【D-2】(主担当:長崎国際大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>1. コンテスト企画案作成。</li> <li>2. 佐賀県への訪問、企画案を説明済み。</li> <li>3. 長崎県への訪問、企画案を説明済み。審査委員の派遣の了承をいただく。</li> <li>4. その他の協力機関については未交渉。</li> </ul> </li> <li>【D-3】(主担当:長崎ウエスレヤン大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史の道観光・文化交流推進協議会と調整中。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各参加校・関係機関は2名以上の委員を選出し、委員会体制を構築する。</li> <li>【D-1】(主担当:長崎外国語大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季期間に開催予定の語学講座(英語通訳セミナー)の事業内容を調整し、告知、実施。</li> </ul> </li> <li>【D-2】(主担当:長崎国際大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>1. コンテスト実施体制の確立。告知。</li> <li>2. 計画スケジュールに沿って事業運営。</li> </ul> </li> <li>【D-3】(主担当:長崎ウエスレヤン大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史の道観光・文化交流推進協議会との調整後、事業実施。</li> </ul> </li> <li>年度末には、シンポジウムを開催し、D-1～3事業でセッションを設け、各事業の実施状況、九州西部地域の課題解決に向けた議論を行う。</li> </ul>	
		D-2	インバウンド観光者の受け入れ体制の整備	インバウンド観光者の増加に向けて、各観光地での受け入れ体制の整備が求められている。そこで、各大学が有するシーズを活用し、地域と連携したインバウンド観光者の受け入れ整備事業を実施する。また、インバウンド観光者の受け入れ体制を検討するネットワークを整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末には、シンポジウムを開催し、D-1～3事業でセッションを設け、各事業の実施状況、九州西部地域の課題解決に向けた議論を行う。</li> <li>各事業の年度計画の概要は以下の通り。</li> <li>○【D-1】(主担当:長崎外国語大学):英語ビジネス通訳養成セミナーをPF事業化する。具体的には、PF参加校の在学生にも受講対象を拡大するとともに、特にPF構成自治体・産業界への周知を強化し、行政職員・企業社員等の受講を勧奨することにより、地域における語学力の向上に寄与する。</li> <li>○【D-2】(主担当:長崎国際大学):旅行プランコンテストをPF事業化する。具体的には、対象を現在の学内の学生から、PF参加校学生に拡大し広く周知を行う。テーマも長崎県と佐賀県を越境する着地型のインバウンド旅行とし、参加校の教員および両県の関係機関が審査を行う。</li> <li>○【D-3】(主担当:長崎ウエスレヤン大学):歴史の道観光・文化交流推進協議会委託による高来町・小長井町(諫早市)、太良町(佐賀県)をつなぐ多良海道周辺地域における観光地域づくり事業をPF事業化する。</li> </ul>			
		D-3	佐賀県・長崎県の各大学・行政・産業界等が一体となった交流人口増加のための観光まちづくり	各自自治体で実施する観光まちづくりは、域内にとどまり、観光者の視点での広域連携が達成されていない。そこで、佐賀県・長崎県各大学・行政・産業界等が一体となったプラットフォームを構築し、域内の連携による観光者の視点での観光まちづくりを進展させる。				
	② まちづくり事業の実施(最終年度までに3件)	D-4	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本プラットフォームを活用したシーズとニーズのマッチングのために、各大学の委員は学内において取組の周知を徹底し教職員や学生の積極的な参加を促す。</li> </ul>			
		D-5	自己評価と外部評価	本専門委員会が担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年目は、実際に共同事業を実施しその成果を検討し課題を共有することが目標である。D-1～3の主担当校を中心に各事業を着実に実施することで本PFが周知され、新規共同事業のための機会創出につなげる。</li> <li>年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。</li> <li>外部評価に向けた準備を進める。</li> </ul>			
		C-8	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>			

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
E. 地域産業の活性化	① リカレント教育の講座等の実施(最終年度までに9件)	E-1	初等・中等教育段階に対する英語及びプログラミング教育支援	九州西部地域の国際化と産業の情報化を見据えて、初等・中等教育段階の児童・生徒に対する英語やプログラミング教育を強化するために教員や指導者に対して支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入れを望む各教育段階の教育機関や学童保育施設等の担当者から、望まれる支援内容や方法について聴取し、具体的な支援内容(教材開発、人材育成、補助員派遣など)を検討し、具体的な活動計画を策定し、活動を進める。</li> <li>支援体制を整備し、支援活動を実施する。生徒や受入側にアンケートを取り、その分析を踏まえて支援内容や方法を改善し、次年度実施に向けて受入側と協議する。</li> </ul>	<p>①[長崎外国語大学](英語) 長崎外国語大学外国語学部現代英語学科が時津町教育委員会と合同で夏休みに同町内で「小学生対象語学講座(英語講座)」の実施に向けて企画を進めている。</p> <p>②[長崎総合科学大学](プログラミング) 夏休みに長崎総合科学大学が実施する「ものづくり体験」のプログラミング体験コースの参加者や関係者へのアンケートを準備している。</p>	<p>①[長崎外国語大学](英語) 2018年6月中…教委及び小学校との協議(ニーズ調査) 2018年7月中…実施要領の確定、募集広報 2018年8月末まで…実施、アンケートによる満足度調査 2018年度末まで…事業効果の測定、改善方策の検討</p> <p>②[長崎総合科学大学](プログラミング) 2018年8月中…ものづくり体験教室でのアンケート調査 2018年9月中…教委及び小学校との協議 2018年度末まで…教材及び指導方法の改善の検討</p>	
		E-2	本PF事業参画校におけるICT活用人材の育成	九州西部地域の情報化された産業を支える人材を輩出するために、本事業参画校の学生のICT活用能力の向上を図るとともに、ビッグデータ活用基礎力の養成や利用者視点でのアプリ開発を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本PF事業参画校の実情と望むレベルを聴取して、到達レベルについて協議し、具体的な活動計画を策定し、活動を進める。</li> <li>企業のニーズも考慮した共通の教材も検討する。また、事例をもとにした講習会や活用法の研修会も開催するとともに、実践した本PF事業参画校の成果を全参画校で共有する。</li> </ul>	<p>①[長崎総合科学大学] アプリ開発に向けた共通教材(使用環境)を検討している。</p>	<p>①[長崎総合科学大学] 2018年7月末まで…事業参画校への要望レベルの調査 2018年9月末まで…開発環境を含む、共通教材の開発 2018年度末まで…開発教材を用いて、その実践テストを行い、教材の改善を図る。</p>	
		E-3	社会人のリカレント教育	九州西部地域で求められている人材の育成を目指して、ものづくり・ICT分野、観光・国際化・まちづくり分野、健康・保育・福祉分野の3分野の公開講演会や公開講座(生涯学習講座)を開催し、そのコンテンツの共同活用を図るとともに、キャリアアップを目指す社会人向けの教育訓練給付制度に適合する講座を開講する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本PF事業参画校がそれぞれで実施している当事業分野の活動状況を聴取し、当事業としての活動計画を具体的に策定し、活動を進める。</li> <li>公開講演会や公開講座(生涯学習講座を含む)は、原則として共同開催または主催・共催の形態とし、そのコンテンツの共有化を図る。また、これらの講師においては、本PF事業参画校の教員の活用を図る。</li> <li>教育訓練給付制度に適合する講座開設に向けて、企業ニーズを把握し、そのニーズに合わせた講座内容を検討する。</li> </ul>	<p>①プラットフォーム事業企画書に記載</p>	<p>①プラットフォーム事業企画書に記載</p> <p>リカレント教育の抜本的改革に取組むための組織体制を整備するとともに、リカレント教育に関するコンテンツを生み出す。</p> <p>③[長崎純心大学] 7/14 第44回純心博物館講座「長崎県の美術館・博物館の理想」を社会人のリカレント教育及び長崎県との連携による学芸員等人材養成の一環として開催予定。</p> <p>④[長崎短期大学] 地域の高齢者の生活支援に関するテーマで公開講座を開催予定。</p>	
		E-4	産学官連携による地域活性化人材の育成	九州西部地域で求められている人材の育成を目指し、特に、ものづくり・ICT分野、観光・国際化・まちづくり分野、健康・保育・福祉分野の3分野の高付加価値化を含む産業活性化支援をより効果的に進める。そのために、本PF事業参画校の人材バンクを共同利用できるように整備する。それを基に、地域の課題解決に寄与できる専門家を紹介するなどして、産学官間の共同研究を推進し、本PF事業参画校の学生や大学院生を多く関わらせて、次代の地域活性化人材の育成を図る。また、産学官間の共同研究や研修プログラム等を通じて、産官内の課題発見解決人材(中核的人材)の育成を支援する。さらに、地域企業でのインターンシップや企業紹介の機会を増やし、本PF事業参画校の学生の地域企業への理解を促し、就職へとつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本PF事業参画校がそれぞれで実施している当事業分野の活動状況を聴取し、当事業としての活動計画を具体的に策定し、活動を開始する。</li> <li>人材バンクの共有化を図り、参画校間だけでなく、広く地域社会にも公開する。</li> <li>本PF事業参画校がこれまでに実施している地域課題解決に向けた共同研究を継続するとともに、学生や大学院生を積極的に関与させる。一方で、人材バンクを基に、地域の自治体や企業に専門家を紹介する。</li> <li>共同研究を通じて産官内の人材育成を支援する。また、企業や自治体へのニーズ調査を実施する。</li> <li>本PF事業参画校の学生に紹介するインターンシップ受入れ企業を九州西部地域まで広げ、それぞれの参画校においては本インターンシップの宣伝に努め、実施者増を図る。また、それぞれの参画校において、域内の企業紹介に努め、域内就職者増を図る。</li> </ul>	<p>①[長崎総合科学大学] 4/21, 22 長崎市観光課と連携して長崎市民を対象として、長崎帆船祭りにて「水中ロボット操作体験」の講座を開催。</p> <p>②[長崎純心大学] 6/2 第57回長崎・キリシタン文化研究会「キリシタン時代のドミニコ会」を世界遺産の認定に先立ち、地域の観光産業の活性化に向けて事業の一環として開催。</p>	<p>①[長崎総合科学大学] ・海洋クラスター協議会と連携し、海洋関連技術を体感するワークショップを2回開催予定。</p> <p>・長崎県造船協同組合と連携し、造船・海洋に係わる人材育成として、県内高校生を対象とした造船所見学会を開催予定。</p> <p>・10/27 新技術創成研究所公開講演会「21世紀の科学技術」-アインシュタインからの最後の宿題！重力波-を地域産業活性化人材育成を目的として大学生、高校生を主な対象として開催予定。</p> <p>②[西九州大学] ・前年度同様中長期実践型インターンシップ(1か月以上)を産業界、自治体と実施する。</p> <p>・佐賀・長崎地域産業界を対象としたインターンシップ受け入れに関する勉強会等を開催する。範囲をプラットフォームに拡大予定。</p> <p>・PBL型インターンシップ(佐賀優良企業発掘)を実施する。コンテンツをプラットフォームに拡大予定。</p> <p>・COC+の取組みに参加する。</p> <p>③[長崎短期大学] ・テーマとなる食材は「万次郎かぼちゃ」と柑橘類の2種類とし、土産菓子として消費期限の長い商品の考案に取り組む予定。</p> <p>・近隣の市町村との連携をもとに、高齢者のニーズ調査や地域活動に学生を参加させる予定。</p>	
		E-5	九州西部地域に特徴的な産業の活性化支援	歴史的・文化的にも魅力のある九州西部地域の特徴的な産業の活性化を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自治体や産業界の関係者の要望と本PF事業参画校がそれぞれで実施している(また、実施可能な)当事業分野の活動内容を聴取して、当事業としての活動計画を具体的に策定し、活動を進める。</li> <li>域内の歴史や文化についての協議会を開催し、自治体や地域住民からの情報も収集する。これを受けて、観光資源化できるものを選択し、その魅力化と情報発信について検討し、実施する。具体的には、長崎と佐賀両地域で構成されたプラットフォームの特徴を生かし、両地域の共通課題を探り、地域活性化への一助とする取組の実施。</li> </ul>	<p>計画実行に向け、検討、準備中。</p>	<p>①[長崎総合科学大学] 長崎県、地元企業と連携して、水素燃料電池船の実用化に向けた設計検討を開始予定。</p> <p>②[西九州大学] 本学健康支援センターを中心に、協定を結んだ企業とともに、健康福祉医療分野におけるコンテンツを市民に提供することを開始する。</p> <p>③[活水女子大学] 波佐見、有田地域における窯業に着目し、若者が興味を抱く契機作り。窯業技術センターの協力を得、見学会および、実際に陶器作りを体験するなどの計画推進のための準備、検討会を開催する。</p>	
		E-6	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本PF事業参画校がそれぞれで実施している地域産業活性化支援策と次年度の実施策をまとめ、参画校間で共有する。</li> </ul>	<p>①[長崎総合科学大学] 「知的財産権特論」を社会人開放講座(15回)として4月より開講中。</p>	<p>①[長崎女子短期大学] 中国、オランダ、ポルトガルなどの影響を受けた食文化、長崎県各地に根付いた郷土料理等を、講義や実習を通して学ぶ講座を9月までに2回開催予定。</p>	
		E-7	自己評価と外部評価	本専門委員会が担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。</li> <li>外部評価に向けた準備を進める。</li> </ul>	----	----	
		E-8	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項				

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
F. 教務系	※「高等教育の質向上」事業と「子ども育成」事業における目標と共通とする。	F-1	単位互換と共通授業の企画・実施	プラットフォームに参加する大学間での単位互換と共通授業の企画・実施。また、地域活性のための科目を設定し、共通授業を企画・実施する。		・高等教育の質向上専門委員会の方針と計画に従って具体的な作業を行う。		
		F-2	共同FD・SDの企画・実施	プラットフォーム内の教育の向上を図るために、教員と事務職員のFD・SDを共同で実施する。テーマについては、大学が直面しているアクティブラーニングや初年次教育及びキャリア教育等を取り上げ、各大学の要求の高い者から実施する。		・高等教育の質向上専門委員会の方針と計画に従って具体的な作業を行う。		
		F-3	共同IRの企画・実施	教育の質の向上や学修成果の可視化のために、可能な限り多くの大学が参画するIRシステムを構築し、共同でのIRを企画・実施する。		・高等教育の質向上専門委員会の方針と計画に従って具体的な作業を行う。		
		F-4	教育支援活動の企画・実施	児童・生徒(小学生～高校生)及びその保護者を対象とした公開講座や講座、初等中等教育機関等への教員や学生の派遣、地方自治体や産業界と共同による教育事業を企画・実施する。		・本事業に関しては高等教育の質向上専門委員会のカリキュラム改革の部分に相当するため、その改革の中に組み込んだ形で実施する。		
		F-5	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。		・高等教育の質向上専門委員会の方針と計画に従って具体的な作業を行う。		
		F-6	自己評価と外部評価	本ワーキンググループが担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。		・年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価については、高等教育の質向上専門委員会と一緒に評価を受ける準備を進める。		
		F-7	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項		・機能的、効果的なシステムになるように高等教育の質向上専門委員会とWGを整理する。		

高等教育の質向上専門委員会の進捗状況及び計画と共通とする。

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
G. 学生支援系	① 県内大学進学率の向上(最終年度までに2014(平成26)年度入学生の進学率比で1%増)	G-1	地域創生支援リーダー育成事業(域内進学促進事業)	地域創生支援リーダーを育成するためにPF構成大学等による共同枠の入試を実施し、共同で学生募集活動を展開。応募条件を「卒業後に各県内事業所に就職し、地域創生のリーダーとなることを希望する者」とし、入学生には「地域創生支援リーダー育成奨学金(仮称)」を給付。財源は基金化を検討し、2019年(平成31)年度入学者より事業開始を目指す。	2018事業計画に中期計画からの変更あり(事業開始年度変更)	1) 共同枠入試・共同学生募集・奨学金事業について事業推進協議会に議案を上程 2) 事業推進協議会での協議結果を土台に、参画校数に応じた奨学金事業規模の確定、及び2019年度からの共同学生募集の開始に向けた広報物の作成完了	共同奨学金事業の実施案を固めるべく、WG構成校の奨学金担当者による「ミニWG会議」を6月12日に開催し、大枠の方針を以下の通り決定した。 ① 奨学金付与は各大学の学費減免枠の供出とする(※学費減免が「共同奨学金事業」に該当するか私学事業団に確認中→6/18(月)以降回答予定) ② 減免枠供出は各学科1名を基本線とし、対応可能な枠数を各大学に照会する ③ 選抜は共同枠入試により実施する(詳細未定) ④ 2020年度入学者向けの学生募集活動に間に合わせるため、遅くとも2019年度4月までに共同枠入試及び奨学金事業の制度を確定させる	①2018年7月2日 第1回事業推進協議会への上程はしない ②2018年7～8月 各大学の状況を勘案しつつ、可能であれば入試担当者による「ミニWG会議」を開催(必要に応じて12月までに複数回の開催も検討)。 ③2018年9月末まで 2018年度発展型の申請に向けて、現在プラットフォームHPに掲載している学生募集広報の内容の再検討(必要に応じてブラッシュアップする) ④2019年3月まで ・共同枠入試及び奨学金事業の制度を確定させる ・事業推進協議会への報告 ・共同枠入試及び共同奨学金を盛り込んだ、2020年度入学者向け広報物の作成
		G-2	地域創生支援リーダー育成事業(域内就職促進事業)	「地域創生支援リーダー育成奨学金(仮称)」受給者を中心として、自治体・産業界の協力のもと、県内就職促進の観点からキャリア支援を実施。2019(平成31)年度以降、事業範囲を段階的に拡大。上記奨学金受給者が中途退学もしくは卒業後に県外就職した場合は給付型から貸与型へ変更する。	2018事業計画に中期計画からの変更あり(上記事業開始年度の変更)に伴い、本事業の事業拡大年度も変更)	1) 2017年度実施事業の効果測定と、それに基づくPDCAサイクルの循環 2) 長崎・佐賀両県のCOC+事業、インターンシップ推進協議会、県庁実施事業のうち、1件との連携の確定 3) 上記1) 2) に基づき、2018年度1件の事業立案及び実施 4) 学年次ごとのプログラム実施を2020年度とし、プログラム策定に向けた予備協議実施 5) 上記1)～4) の協議のためのWG会議2回	1)について 上半期実施予定「合同グループディスカッション講座」の企画立案にあたり2017年度実施事業により得られた改善点を盛り込み済。 2)について 長崎市「游学のまち」事業と連携していく方針を今年度第1回メール会議で確認	1)について 合同グループディスカッション講座の実施に向けた今後の予定は別紙参照 2)について 2018年9月までに「游学のまち」事業のプラットフォーム事業化の承認を得るため、本WG構成校で同事業にも参画する活水女子大と長崎外大が長崎市都市経営室と交渉。同意が得られれば2018年12月開催予定のシンポジウムをPFとの共催として実施する
	G-3	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。		・特になし	G-2「域内就職促進事業」の一環で、長崎国際大の独自事業「10大学・短期大学合同 栄養士・管理栄養士対象 合同企業説明会」が実施された。 日時:4月19日(木)13:00～16:00 場所:長崎国際大 参加:企業等11社、大学・短期大学6校、学生161名	特になし	
	G-4	自己評価と外部評価	本ワーキンググループが担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。		・自己評価は2017年度同様、本シート作成を以て実施予定。外部評価は、2019年度中のアセスメント指標策定、2020年度の中間外部評価受審を予定しており(本WG中期計画に記載済)、その準備作業を進めていく。 ・年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価に向けた準備を進める。	特になし	自己評価は年度末に「H30年度事業実績報告」作成を以て実施予定(メール会議を予定)。 外部評価については未定。	
	G-5	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項		・特になし	特になし	特になし	

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定	
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要					
H. 地域・産学連携系	① 共同研究の実施 (最終年度までに、 年2件以上)	H-1	地域の活性化に資する大学改革の推進を目的とする、PF内での教職員の人事交流を企画・実施	プラットフォーム事業における重点分野(高等教育の質向上、健康・医療・福祉、子ども育成、国際交流・観光・まちづくり、地域産業活性化、県内進学促進、県内就職支援)でのプラットフォーム内の人事交流について検討し、可能な部分から随時実施する。		・PF内の大学間・産学官連携による重点分野における人事交流の可能性について検討・調査を行う。	未着手		
		H-2	PFで実施した環境、人口動態などPF内の地域固有の事由を考慮した高等教育全体にわたる現状と課題の分析に基づく、PF内の地域課題の解決のための共同研究の実施	プラットフォーム事業における重点分野(「高等教育の質向上」/「健康・医療・福祉」/「子ども育成」/「国際交流・観光・まちづくり」/「地域産業活性化」)のうち、1つまたは2つ以上の分野から構成されるPF内の複数の大学の教職員による共同の公開講座の企画・実施		・PF内の地方自治体、経済団体等の地域課題関連の研究・委託事業・開発ニーズ、H30年度以降の支援メニュー調査 ・各専門委員会と当WGとの協議により、共同研究制度のスキーム(テーマ設定、財源等)検討・策定、共同研究計画の取りまとめ ・共同研究を1件以上実施する。	未着手		
		H-3	PF形成大学等において、共同の公開講座の企画・実施	プラットフォーム事業における重点分野(「健康・医療・福祉」/「子ども育成」/「国際交流・観光・まちづくり」/「地域産業活性化」)のうち、1つまたは2つ以上の分野から構成されるPF内の複数の大学の教職員による共同の公開講座の企画・実施		・PFによる共同公開講座の実施要綱(各専門委員会、WGの事業計画において、公開講座を組み込むことを義務付ける、実施状況報告等)を決定する。	未着手	・PFによる産学官連携事業の展開に必要なニーズ調査・シーズ調査を8月中に実施 ・当WGで調査設計、既存データ収集、自治体、産業界との連絡調整を行う。 ・共同研究、公開講座については、専門委員会・WG責任校会議で当WGの役割について協議を行った上で、具体策を練る。	
	② 施設・設備の共同利用による取組の実施(最終年度までに、年1件以上)	H-4	PF内で、特定の地域におけるリスクマネジメントについての検討	災害、事件・事故発生時におけるリスクマネジメント		・計画期間中の産学官連携による防災に関する基本計画を策定 ・長崎ウエスレヤン大学と諫早市社会福祉協議会の連携により継続して取り組んでいる諫早市森山地区の住民参加型防災事業の経過報告会を開催	・防災プラットフォームプロジェクト企画案策定 ・諫早市社会福祉協議会・諫早市森山町と11月の視察について了解済み		
				・防滅災対策、災害時の支援体制等に関して、市町等の自治体も含めた産学官連携による防滅災に関する公開講座、災害時の支援計画、共同SD計画を策定する。					
			・各大学は1人以上、防火・防災管理者資格取得者を養成する		・計画期間中の防火・防災管理者資格取得計画を取りまとめる	未着手			
		H-5	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。		・推進協議会において各大学独自事業をとりまとめ、PF事業としての展開を検討する。	未着手		
H-6	自己評価と外部評価	本ワーキンググループが担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。		・年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価に向けた準備を進める。	未着手				
H-7	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項							

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
I. 短期大学系	① 共同IRによる共通調査等の実施(最終年度までに年5件)	I-1	共同でのIR活動の実施	共通調査等を活用したIRによって、自校の強み、弱みなどを把握する。その上で各校が地域のなかで魅力・特色のある高等教育機関となるような知見を得る		・在学生調査、卒業時調査、卒業生調査、就職先調査を実施し、IR活動の基盤となるデータを蓄積/調査内容の精査・改善	調査質問項目精査中	10月:在学生調査、12月:卒業時調査を実施、その他調査については調整中
		I-2	短期大学生に適した職業・キャリア教育の推進	職業・キャリア教育を中心とした教育内容についての調査研究を展開し、短期大学生に適した教育プログラムを実践する		・職業・キャリア教育を中心とした教育内容についての調査研究 ・短大生の特色に合わせた職業・キャリア教育プログラムの実施(短大フェス等学生間交流を含めたキャリア教育)	短大フェス開催に向けた企画。調整中	9月:事前研修会、10月:フェス実施、
		I-3	高短(大)接続を円滑に進める事業の展開	高短(大)接続を円滑に進め、切れ目のないキャリア支援を視野に入れたプログラムを実施する。また、高校生が地域の高等教育期間に魅力・興味・関心を持ち、佐賀・長崎地域の人口流出を防ぐために連携した活動も実施する		・短大生による高校生のキャリア接続支援事業(高大接続事業) ・学生募集活動	訪問高校との調整&事前研修会日程調整中	6月末:事前研修会、9月:キャラバン隊実施、
		I-4	学び直し機能の充実	短期大学の役割のひとつである「学び直し」を充実させる。コミュニティカレッジとしての性質も模索されている短期大学で社会人のリカレント教育を充実させていくことが重要である。また社会人となった卒業生へのキャリア支援も同じ文脈で捉え、連携して実施する		・卒業生のキャリア支援/地域女性のキャリア支援/社会人の学び直し講座やリカレント教育	今後内容を検討する	
		I-5	生涯学習機能の充実	短期大学の機能として生涯学習活動の拠点がある。カルチャーセンター化しない地域の学びの拠点を構築し、生涯学習機能を充実させる		・公開講座/生涯学習講座の共同開催	今後内容を検討する	
		I-6	教育力、学生支援力など教職員の能力向上	共同してのFD/SD研修や教職員の人事交流を定期的実施することで、短期大学ひいては高等教育機関としての充実を図る		・FD/SD研修 ・教職員の人事交流	後期にFD/SD研修を実施予定 人事交流については今後調整	
		I-7	各大学独自事業	本PF事業参画校の独自の取組内容とその成果を参画校間で共有する。				
		I-8	自己評価と外部評価	本ワーキンググループが担当する事業についての自己評価を行うとともに外部評価も受ける。		・年度末に振り返りを行い、当年度の当専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価に向けた準備を進める。	今後内容を検討する	
		I-9	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項		・上記のための定期的な短大系WGの事業推進会議の開催(年3回以上)	6月17日に第1回事業推進会議を開催	

## 平成30年度事業計画進捗状況(H30.7.2時点)

中期計画					備考	平成30(2018)年度事業計画	現在までの進捗状況	今後の予定
課題分野名	課題の数値目標	No.	事業名	事業の概要				
J. 中期計画策定・点検評価	① 各専門委員会及びワーキンググループにおける指標達成の管理と評価を行う。	J-1	中期計画の策定	中期計画を取りまとめる		・平成29年度に策定完了	—	—
		J-2	中期計画の進捗管理	中期計画に記載した各事業について、各専門委員会やワーキンググループと連携して、進捗状況を把握・管理する。		・中期計画及び平成30年度の計画計画に基づき各専門委員会・WGと連携の上、各事業の進捗状況を把握・集約し、年度末の事業推進協議会において実績報告及び自己評価を行う。また平成31年度の事業計画を策定する。 ・プラットフォーム事務局にプラットフォーム専従のコーディネーター及び事務担当者を採用する。 ・事業の円滑な運営に向けた各種のルールやツールを取り決めていく。	・中期計画に連動した平成30年度事業計画について、進捗状況と今後の予定を、各専門委員会・WGにおいて策定中	・平成30年度第1回事業推進協議会を中期計画策定・点検評価専門委員会と併催として、計画の進捗状況と今後の事業について進捗状況を把握・管理する。
		J-3	中間報告書の作成	中間外部評価を受けるための中間点検評価報告書を取りまとめる。		・中間報告書の作成に備え、平成30年度の事業実績を取りまとめた上で、自己評価を行う。	・中間報告書の作成に備え、平成29年度第3回事業推進協議会において、平成29年度事業報告と平成30年度事業計画を策定。	・中間報告書のとりまとめに備え、平成30年度事業計画の進捗状況を把握・管理していく。
		J-4	最終報告書の作成	最終外部評価を受けるための最終点検評価報告書を取りまとめる。		・最終報告書の作成に備え、平成30年度の事業実績を取りまとめた上で、自己評価を行う。	・最終報告書の作成に備え、平成29年度第3回事業推進協議会において、平成29年度事業報告と平成30年度事業計画を策定した。	・最終報告書のとりまとめに備え、平成30年度事業計画の進捗状況を把握・管理していく。
	② 中期計画全体の進捗管理と評価(各年度に実施、中間評価を3年目に実施し、最終評価は最終年度に実施する)	J-5	外部評価の実施	外部評価の企画・準備・対応を行う。		・年度末に振り返りを行い、当年度の事業全体及び各専門委員会の活動に対する自己評価を行うとともに、次年度活動計画に反映する。 ・外部評価委員会を設置し、本プラットフォームの目的と事業概要的、外部評価委員会の役割などについて説明を行う。 ・外部評価については、準備を進める。	・外部評価委員会の人選について、準備を進める。	・第1回外部評価委員会を平成30年度に開催し、委員に事業の概要と役割について説明する。 ・状況に応じて、年度による外部評価も検討・実施する。
		J-6	中期計画の改定	事業の進捗により中期計画の修正が必要になった場合に、改定作業を行う。		・参画機関の増加や事業の追加・修正等、中期計画の修正が必要になった場合、事業推進協議会で審議の上、適切に改定を行う。	・市・町の追加に向けて検討中。	・参画機関の追加が決定した場合、中期計画を改訂する。
		J-7	次期計画の検討	本中期計画の終了後の事業の継続・発展のための次期計画について検討を行う。		・各年度の事業実績について課題を確認しながら、次期計画の策定に備えていく。	・各年度の事業実績について課題を確認しながら、次期計画の策定に備えていく。	・各年度の事業実績について課題を確認しながら、次期計画の策定に備えていく。
		J-8	追加及びその他	上記計画以外に、各年度に新たに計画・実施した事項		・事業の継続・発展のため、社会情勢の変化や各事業の実績と課題、産学官のより密接な連携関係の強化を推進する。	・コーディネーターと事務パートの採用に向けて人選・準備中	・コーディネーターと事務パートを採用し、事務局機能を強化する。
プラットフォーム事業全体						・2年目となる平成30年度は、各専門委員会・WGを中心として、参画機関の連携を密にし、協働・協力のもとで、事業をより具体化・実質化する。 ・大学等の所在する市町等、両県の他の経済産業界団体、高専や放送大学等に対しプラットフォーム参画を呼びかけていく。 ・参画機関により構成されているコンソーシアム等の既存の連携組織との共同や役割分担について、協議を進める。 ・運営にかかる原資の確保のため、引き続き改革総合支援事業等の申請を行うとともに、その他の助成金事業や寄付金など外部資金の獲得についても、参画機関と協議の上、連携して推進する。	・人件費及び事業運用資金の確保のため、参画機関のうち、私立大学・短期大学より、平成30年度の年会費100万円/校を請求・納付手続き中。 ・長崎県・佐賀県等との連携強化にむけ、支援依頼や意見・コメントの周知を実施。 ・プラットフォームを活用し、参画機関による各種事業の情報提供を実施。	・事業経費の配分・執行方法について確定する。 ・平成30年度私立大学等改革総合支援事業タイプ5「プラットフォーム形成(発展型I)」に申請する。